

## 国民健康保険・後期高齢者医療保険の 食事療養標準負担額が令和6年6月より変更されます。

国保区分	後期区分	変更前 食事療養標準負担額	変更後 食事療養標準負担額
一般(下記以外)	一般(下記以外)	1食460円※1	<b>1食490円※1</b>
住民税非課税世帯 低所得Ⅱ※2	区分Ⅱ※4	1食210円	<b>1食230円</b>
		過去12か月の入院日数が90日までの入院	
		1食160円	<b>1食180円</b>
		過去12か月の入院日数が90日を超える入院	
低所得Ⅰ※3	区分Ⅰ※5	1食100円	<b>1食110円</b>

※1 小児慢性特定疾病児童等または指定特定医療を受ける指定難病患者は負担額が異なります。

※2 同一世帯の世帯主および国保被保険者が住民税非課税の人(低所得Ⅰ以外)

※3 同一世帯の世帯主および国保被保険者が住民税非課税で、その世帯の各所得が必要経費・控除(年金所得は控除額を80万円として計算。給与所得がある場合は、給与所得から10万円を控除)を差し引いたときに0円となる人。

※4 市町村民税非課税世帯の被保険者で区分Ⅰに該当しない人。

※5 次の①または②に該当する被保険者

①世帯全員の各種所得(給与所得については、税法の規定により計算した金額から10万円を控除した金額(その金額が0円を下回るときは0円)とし、公的年金については控除額を80万円で計算)が0円の世帯の被保険者

②市町村民税非課税世帯の被保険者で老齢福祉年金を受給している方

☎ 保険年金課 ☎(55)7119

## あいさい見聞録 その52 〜海拔0m地帯からの展望〜

海拔0m地帯とは、海岸付近で地表標高が満潮時の平均海面よりも低い土地を指します。全国に海拔0m地帯を含む平野がいくつかありますが、いずれも大河による堆積作用で形成され、地盤沈下した地域です。

濃尾平野にある0m地帯は402km<sup>2</sup>、愛知県の旧海部郡の大半(286km<sup>2</sup>)、岐阜県海津市、三重県桑名市などにまたがり、愛西市(67km<sup>2</sup>)の全域が含まれます。濃尾平野は海拔0m地帯としてダントツの1位! 2位の佐賀平野と3位の新潟平野を足した面積より広いのです。

愛西市の木曾川堤防上からは、木曾川源流にある木曾御岳山だけでなく、平野の末端にある、約30km先の岐阜市にある金華山、犬山市にある本宮山、名古屋市の高層ビル群、瀬戸市の猿投山などが見えます。江戸時代には、津島の料亭から名古屋の城が見えたそうです。

このぺったんこの地形からの

奇跡的な大展望をもっと自慢したいですね。

### 日本の主な0m地帯 (ウイキペディアより引用)

①濃尾平野(愛知岐阜三重)	402km <sup>2</sup>	②佐賀平野(佐賀)	207km <sup>2</sup>
③新潟平野(新潟)	183km <sup>2</sup>	④関東平野(東京千葉神奈川)	145km <sup>2</sup>
⑤大阪平野(大阪)	71km <sup>2</sup>	⑥岡崎平野(愛知)	57km <sup>2</sup>

☎ 市観光協会 ☎(55)9993

